

資源物収集について（検討課題）

1. 資源物の収集方法及び頻度

<現状>

収集方式：ステーション方式（市内147カ所 約15カ所／日）

収集日時：月2回、午前7時から9時まで

収集品目：空カン、空ビン、ペットボトル、その他プラスチック、その他不燃、有害ごみ

事業者意見：頻度を増やす、戸別収集にするにしても、現有車両では足りないため、新たに発注する必要があるが、メーカーの都合で、納車に2年程度要する。

分別収集での収集量

(単位:t)

分 類	R3	R4	R5	R6
空 カ ン	104.63	98.63	79.65	76.13
空 ビ ン	253.82	239.61	220.37	205.83
そ の 他 不 燃	267.23	215.45	241.28	218.09
ペットボトル	99.91	107.38	104.27	101.43
その他プラスチック	195.08	246.78	234.10	225.82
廃 乾 電 池	10.57	10.52	12.00	10.32
蛍 光 灯	3.21	2.33	3.03	2.99
合 計	934.44	920.71	894.70	840.61

※指定ごみ袋制度により分別意識が高まり、令和4年度にはその他プラスチック収集量が約 50t 増加し、その後減少傾向となっている。

2. これまでの経過

- ・令和4年2月の「指定ごみ袋制度」開始に伴い分別の意識が高まり、その他プラ排出量が制度開始前と比べ、約30%増加、ペットボトルも10%以上増加。
- ・資源物排出量増加に伴い、市民からも従来のステーション回収頻度では家に溜まってしまうため、頻度を増やして欲しいとの声が寄せられた。
- ・令和4年度第13回審議会にて初めて、市民の声を検討課題として挙げ、どのような収集方法が考えられるのか、事務局で検討することとした。
- ・令和5年度第14回審議会にて、以下の収集方法について提示。それぞれのメリット、デメリットを検討し、費用面についても事業者からヒアリングすることとした。
- ・令和6年度第15回審議会にて、令和13年度までに回収をスタートする製品プラスチックと合わせて引き続き検討課題とした。

3. 製品プラ(新プラ法)の収集との兼ね合い

乙訓環境衛生組合の処理施設が施設老朽化に伴い、順次更新していく計画。この施設整備に係る費用については、国の循環型社会形成推進交付金を活用。

この交付金の交付要件にプラスチック使用製品廃棄物の分別収集及び再商品化が含まれていることから、循環型社会形成推進地域計画期間の翌年度である令和13年度までにプラスチック使用製品廃棄物の分別収集及び再商品化を実施する必要がある(乙訓2市1町)。

その他プラの回収と共に、製品プラの回収も令和13年度までに収集する必要がある。

4. 収集方法について

(1) 現状維持

効果:コスト負担無しにリサイクル率が引き続き向上する期待がある

ステーション周辺の住民にこれ以上の負担がない

懸案:もやすごみと一緒に排出される可能性

市民の利便性は改善されない

民間回収など、ステーション排出以外の排出方法を促し、集中を避ける必要があるのではないか

(2) 収集頻度を増やす(その他プラ以外は隔週方式)

1週目:カン、ペットボトル、その他不燃、その他プラ

2週目:ビン、有害ごみ、その他プラ

効果:その他プラの収集頻度増により、利便性向上

1回当たりの排出量が減少するため、集積場のコンテナ数を増やさなくても対応可

懸案:収集コスト増、収集業者の対応能力(人員、車両)

毎週資源物の回収があるため、ステーション周辺住民の負担増(騒音、周辺美化)

(3) 戸別収集

もやすごみと同様、自宅前(ステーション)に排出

効果:市民の利便性向上(高齢者のごみ出し支援にも繋がる)

自宅前に出すので、排出者の特定が容易であり、正しい分別が期待できる。

懸案:収集コスト増、収集業者の体制確保(人員、車両)

資源ごみのどこまで対応するのか(その他プラのみ?)

資源ごみ排出専用の袋を作成した場合、市民負担が増える(袋の有料化)

自宅前での排出方法の徹底ができるか(複数種類の資源物を分けて出すことが現実的か)

(4) 店頭回収

小売業者の店頭回収の促進

(回収店舗のPR、事業者の回収品目増加、排出しやすい仕組み作り(インセンティブ付与))

効果:市民の利便性向上(月2回の資源物収集以外の機会の提供)

懸案:店頭回収の場所が限定される(市内で対応出来る大型店舗が少ない)

資源物を回収する仕組みがない事業者への取組支援(回収業者のマッチング)

【参考】

< 資源物回収協力店 >

施設名	住所	回収品目
イオンフードスタイル東向日店	向日市寺戸町小畑5-1	食品トレイ、牛乳パック、ペットボトル、アルミ缶
イオンスタイル京都桂川	京都市南区久世高田町376-1	食品トレイ、牛乳パック、ペットボトル、アルミ缶
株式会社神崎屋	向日市寺戸町東ノ段4	食品トレイ
ドラッグユタカ向日上植野店	向日市上植野町下川原1-8	ダンボール、新聞、チラシ、本
フレスコ向日市店	向日市寺戸町東野辺31-8	食品トレイ、牛乳パック
万代榎原店	京都市西京区榎原比恵田町22-1	食品トレイ、牛乳パック、ペットボトル
マツモト向日店	向日市森本町高田5-1	食品トレイ、牛乳パック
マツモト大原野店	京都市西京区大原野上里南ノ町923-2	食品トレイ、牛乳パック



プラスチック資源循環戦略(国の中間目標)

リデュース等	○ 2030年までにワンウェイプラスチックを累積25%排出抑制
リユース・リサイクル	○ 2025年までにリユース可能なデザインに ○ 2030年までに容器包装の6割をリユース・リサイクル ○ 2035年までに使用済みプラスチックを100%リユース・リサイクル等により有効活用
再生利用 バイオマスプラスチック	○ 2030年までに再生利用を倍増 ○ 2030年までにバイオマスプラスチックを約200万トン導入

～出典:環境省～